

令和8年（2026年）4月30日

報道関係 各位

真庭市役所

JICA 海外協力隊 派遣職員帰国報告

日時▶ 令和8年5月12日（火）午後1時00分～2時00分

場所▶ 真庭市役所本庁舎 3階応接室

独立行政法人国際協力機構が行っている JICA 海外協力隊事業では、アジア・アフリカ・中近東・中南米・大洋州地域の発展途上国 99 カ国に協力隊員を派遣しています。

このたび海外協力隊としてマーシャル諸島に派遣されていた宮崎奈々さんが帰国されましたので、市長及び教育長に帰国及び活動報告をおこないます。

つきましては、取材くださいますようお願いいたします。

概要▶

1 日 時 令和8年5月12日（火）午後1時00分～午後2時00分

2 場 所 真庭市役所本庁舎 3階応接室

3 内 容 派遣職員から市長及び教育長に帰国及び活動報告

4 出席者 派遣者 宮崎 奈々（みやざき なな）
真庭市 市長 太田 昇
真庭市 教育長 三ツ 宗宏
生活環境部 部長 石田 明義
生活環境部 共生社会推進課長 尾崎 ひろみ
教育委員会 学校教育課長 田中 裕恵
（以下 JICA 関係者など）

5 その他 派遣者の活動内容等は別添資料をご覧ください。

お問い合わせ先・発信元▶

共生社会推進課（担当 笠井・石田）

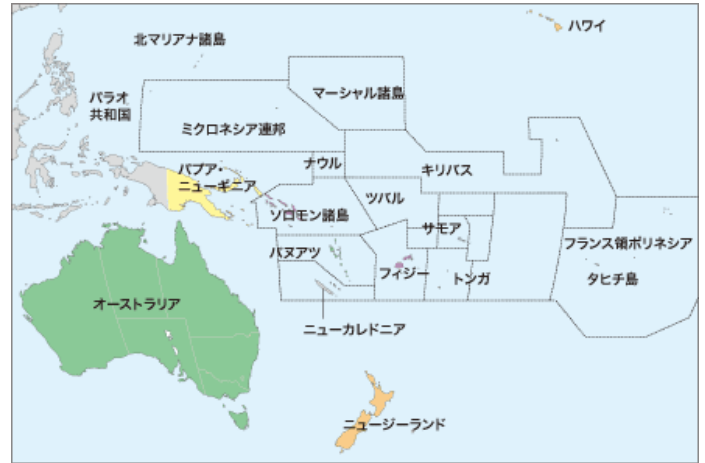
TEL0867-42-1017

FAX0867-42-7455

JICA 海外協力隊 活動報告

【発表者】

名前：宮崎 奈々(みやざき なな)
 出身：高梁市
 勤務校：月田小学校
 派遣先：マーシャル諸島共和国
 派遣期間：2024年8月末～
 2026年3月末(約1年7カ月)
 職種：小学校教育



大学2年時に参加したフィリピンの小学校インターンでの経験から国際協力に興味をもつ。大学卒業後、新採用で月田小学校に3年間勤務をしたのち、JICAの「特別教員参加制度」を利用して、現職のまま協力隊に参加。

【派遣国(マーシャル諸島共和国)について】

- ・太平洋に浮かぶ29の環礁と5つの小島から成る島国(首都は、マジュロ)
- ・国土面積は約181平方キロメートル、海域は約200平方キロメートル
- ・広大な海域を活かした「漁業」と「ココナッツ加工」が主な産業となっている。
- ・人口は約4万人(2023世銀)
 アメリカのビザが必要ないため、親族を頼って渡米をする現地の方が多くなっていることが課題となっている。
- ・マーシャルを日本が統治していた時代もあり、「タマ」「ジョーリ」「アメタマ」といった日本語が残っている。
- ・ココナッツの葉をひも状にした「キメジ」を使った伝統工芸品「アミモノ」が有名。
 ウォッジェ島のウォッジェフラワーは、日本軍が使用していた「電線」を利用して作られてたと言われている。
- ・ビキニ環礁では「ブラボー」実験も行われ、今もなお島に戻れない現地の方がいる。



ウォッジェフラワー 大砲で遊ぶ子ども達

アメタマ

大阪万博の様子



【任地(ローラ)について】

- ・活動先は、首都から約1時間ほど車で移動した場所にあります。町と比べると、昔ながらの自然、暮らしを見ることが出来ます。
- 「台風モニュメント」や「ローラビーチ」が有名です。

【派遣前訓練所(駒ヶ根)での学び】

2024年4月から約3カ月・長野県の駒ヶ根訓練所で、同じ志をもった仲間との出会い。派遣前、派遣後も互いに支え合う大切な存在に。訓練中は、予防接種、安全についての講義、心得などの学習。自分の経験、好きや得意なことを表現する場。多くの人の経験を聞くことを通して、新しい学びができました。

【活動中意識していたこと】

相手を尊重すること。相手や相手の国の文化を知ろうとすること。
私(ミア)を知ってもらうこと。

- ① どんどん現地語(マーシャル語)をつかう
- ② 休みの日に時間がある際は、ローラを一周して知り合いを増やす
- ③ マーシャル料理の作り方を教えてもらう、食べてもらう
- ④ ウクレレでマーシャルソングを弾けるようにする、歌えるようにする
- ⑤ マーシャル文化の体験ができる機会がある場合には、積極的に参加する
ココナツの葉を使ったプレート、バスケットの作り方を知る
→バスケット早編み大会に参加
- ⑥ 教会の行事にどんどん参加→クリスマスに「ローラチーム」としてダンスに参加する
- ⑦ 誘われた誘いは断らない→現地の文化「ケーメン」、知り合いが増えるきっかけに

【現地の先生方との関わりで学んだこと】

- ① 子どもに合わせた指導方法→図に書いてみる、放課後に抜き出して指導する
- ② 一生懸命活動している姿を見て、理解してくれている
→「ミアの子どもに向き合う姿勢を私もみないたい」
- ③ 体の安定は心の安定
→体調が悪い、家族の用事がある時には学校に出勤しない時も、私が風邪をひいたときには「治るまでゆっくり休んだらいいよ」
- ④ 子どもも先生も「楽しい」、チャレンジ精神をもって仕事に向き合う姿
→授業でも行事でも新しいことにどんどん挑戦
活動中、先生達はいつも笑顔でした。合言葉は「Emman(エンマン)」

【現地の子ども達との関わりで学んだこと】

- ① 子ども達のやさしさ→どの学年の児童でも小さい学年の児童と自然に積極的に関わろうとする子ども達。赤ちゃんは取り合い。
分からないこと(マーシャル語や文化等)を教えてくださいました。
- ② みんな学びたい→ドロップアウトをしていたり、長い期間学校に来ていなかったりして教室の学力差は大きいですが、どの児童も問題に向き合う時間は真剣そのものでした。
- ③ あるものでなんとかかする→サンダルを使ってベース、木の板でバット、テニスボールを使って「野球」をしていました。子ども達の創造力は無限大だなと感じました。

【2年間の協力隊員としての活動を終えて】

任国で過ごした1年8カ月は、私にとって大きな成長の機会となりました。活動中は、自分の取り組みが現地教員の役に立っているのか葛藤することもありましたが、授業外での関わりを大切にすることで、少しずつ本音を交えた会話ができるようになったと感じています。自分の思いが先行してしまうこともありましたが、相手の考えに寄り添うことで、算数の授業改善に向けた良いパートナーシップを築くことができました。また、一方的に活動を押し付けるのではなく、互いに歩み寄る姿勢が支援において重要であることにも気づくことができました。学校外でも現地教員に支えられ、自分の活動は現地の方々の助けなしには成し得なかったと感じます。今後は、マーシャル諸島共和国の魅力や協力隊活動の意義を多くの人に伝えられるよう、積極的に活動していきたいと考えています。ありがとうございました。